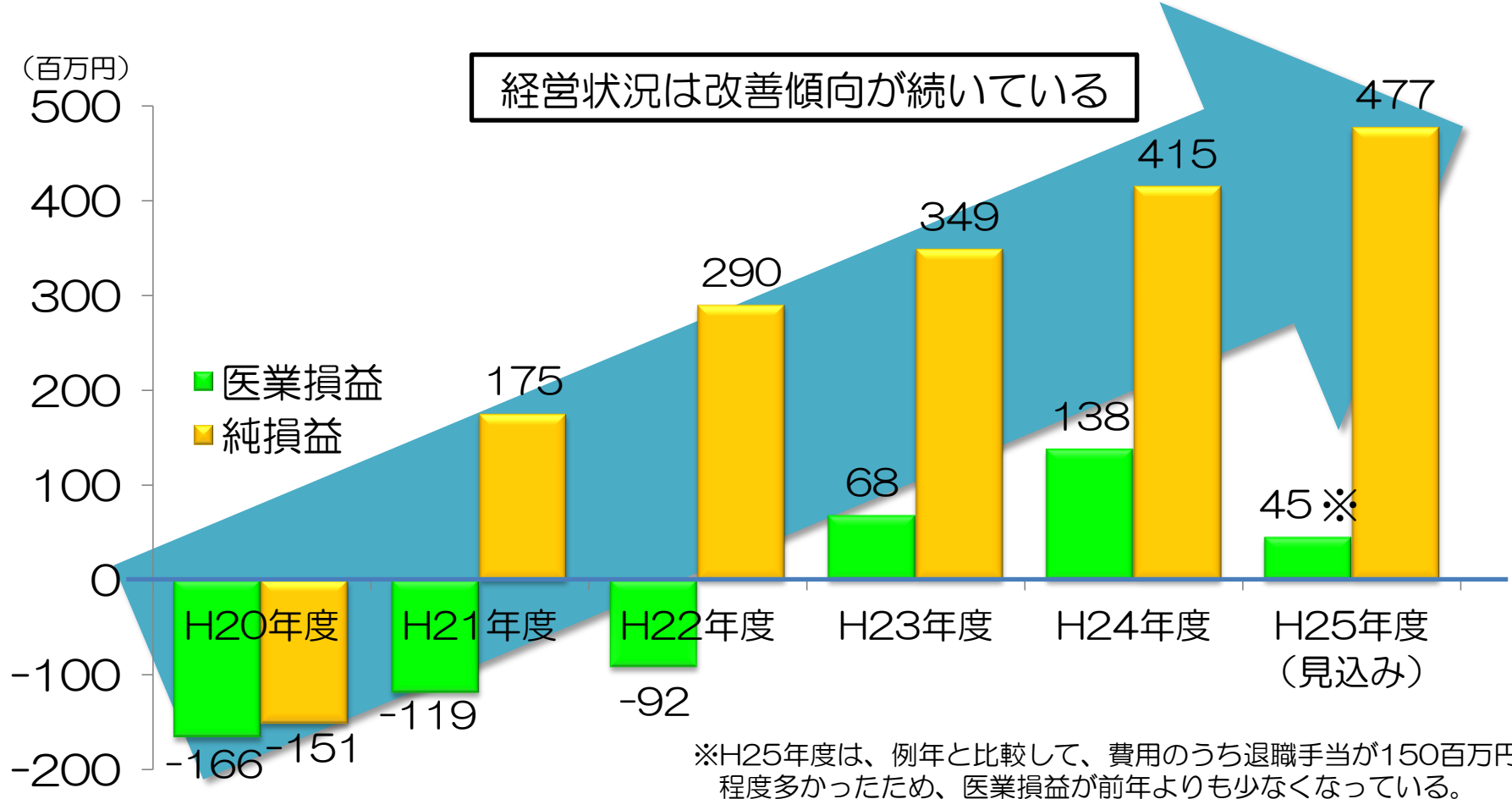


病院事業の収支状況について

○平成21年度以降、単年度黒字を継続しており、平成25年度末では約4億7千万円の黒字の見込みである。
 ○不良債務は最大で約21億1千万円（平成19年度末）であったが、平成20年度に公立病院特例債14億円等を活用することによって、平成20年度末には約5億8千万円まで減少し、平成25年度末時点では約1億3千万円まで減少する見込みである。また、経営資金の一時借入金の額も毎年度減少しており、資金繰りは年々良くなっている。
平成27年度には不良債務は解消できる見込みである。
 ○企業債残高は平成25年度末見込で約17億1千万円と、平成21年度から約13億円償還している。
 ○累積欠損金（累積赤字）は最大で42億円以上であったが、近年の黒字化により、平成25年度末では25億5千万円程度まで減少する見込みである。



年度	総収益	総費用	純損益	累積欠損金	不良債務（比率） ※1		企業債残高	年度末 一時借入金 現在高	他会計繰入金 ※2
20年度	4,726,780	4,878,262	△ 151,482	4,255,501	584,964	12.4	2,848,105	1,350,000	450,000
21年度	5,198,744	5,024,168	174,576	4,080,925	592,520	11.4	3,013,864	1,350,000	796,480
22年度	5,557,264	5,267,669	289,595	3,791,329	499,071	9.0	2,603,947	1,250,000	831,343
23年度	5,666,170	5,317,582	348,588	3,442,741	288,081	5.1	2,688,744	1,150,000	709,924
24年度	5,831,506	5,416,291	415,215	3,027,527	133,842	2.3	2,273,422	1,050,000	702,224
25年度 (見込)	5,981,192	5,503,979	477,213	2,550,313	130,126	2.2	1,713,935	950,000	829,659

※1 不良債務比率は、総収益に対する不良債務の割合です。

※2 平成21年度以降、公立病院特例債の償還額や当該年度の退職金の一部等を追加繰入しているため、年度ごとの金額に差があります。

【累積欠損金について】

累積欠損金は、単年度収支の赤字額の積み上げであり、資金収支とは異なります。

単年度収支の赤字額の中には減価償却費や除却費など、現金の支出を伴わない費用が存在しますので、表面上は赤字となっても、資金収支上は黒字となっている場合もあり、累積欠損金が直接経営に必要な資金不足を表すものではありません。

【不良債務について】

不良債務は、年度末（貸借対照表日現在）において、流動資産（現金預金、未収金等）を流動負債（一時借入金、未払金等）が超える部分であり、資金繰りができなくなっていることを示しています。収益・資本の両収支の資金繰りを判断できるため、経営悪化の判断基準となります。

【企業債残高について】

公営企業債は、一般家庭に例えると、車や家を買う際のローンであり、病院においては、主に医療機器や施設整備のために金融機関等からの借り入れを行っています。平成22年には企業債を活用して放射線治療センターを整備し、平成24年度から稼働しています。

なお、平成20年度に発行した公立病院特例債14億円は、毎年度2億円ずつ償還しており、平成27年度に終了する予定です。

【一時借入金について】

一時借入金とは、一会計年度内において現金が不足した場合に、その不足を補うために借り入れるもので、一般企業に例えると、金融機関等から借り入れる運転資金（製品を販売した収益が手元に入るまでの間の製造に必要な費用等）と言えます。